

2021年度入学者選抜について

APUは、学生が自ら成長する「学びの場」であることを大切にしています。そして、開学以来、日本全国と世界中から集まる学生のもたらす多様性ととも個性を尊重してきました。今後も、自分の頭で考える力を備えつつ多様な個性を持った人に入学してほしいと思っています。

APUは、高校までの学習や課外活動などにしっかり取り組んできたものの、将来の目標がまだ明確に定まっておらず、大学での学びや課外活動を通して見つけようと考えている人、自分自身を大きく成長させたいと考えている人、さらに、将来自分の行動で本気で世界を変えたいと考えている人にとって、様々なチャンスと出会える大学です。高い目標を目指す学生を応援する大学です。

APUは、2021年度入試よりAPU2030ビジョンにある「世界を変える」人材を育成・輩出するための入試を実施します。

APU2030ビジョン「APUで学んだ人たちが世界を変える」

APUは世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティを構築し、APUで学んだ人たちが「世界を変える」人材に成長することを望んでいます。

このビジョンは、「皆さんが広い世界のどこかで自分の持ち場を見つけ、APUで学んだことを活かしながら、自ら行動して世界を変えてほしい」、すなわちチェンジメーカーを育てたいと謳うものです。

世界は急速に変化しています。その変化のスピードの中では最新の知識を得てもすぐに古くなってしまいます。その様な状況でこそ重要になるのが「基礎的な資質・能力と自分の頭で考える力」です。文章や情報を正確に読み解く力、自分の考えや意思を的確に表現し論理的に説明する力や数理的思考力など、しっかりとした力を身につけ行動することで世界を変えることができる人材を育てたいと願っています。

APUが求める人材に必要な資質・能力

APUでは、新しい時代にグローバルに活躍し、「世界を変える」人材に必要な資質・能力を次の様に考えます。

■知識・技能、思考力・判断力・表現力

高等学校までの学びの成果として、幅広い知識・技能に基づく思考力・判断力・表現力を身につけ、主体的・対話的で深い学びを通して生涯にわたって能動的に学び続けられる。

■英語コミュニケーション能力

的確な英語運用能力を備え、世界各国・地域から集う仲間とともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合える。

■主体性・多様性・協働性

目標に向かう行動力、やり抜く力、他者との相互理解に基づいて他者を巻き込みつつ、他者に貢献する態度を備えている。

2021 年度入試について

APU は、2021 年度入試より下記の通り入試を実施します。

各入試の募集人員、試験時間、配点等詳細は、それぞれの入学試験要項で確認してください。

なお、英語外部資格試験は、英語 4 技能を測るものとします。

また、記載内容については、今後変更することがあります。変更する場合は、本学のホームページ等でお知らせします。

I. 一般選抜(現行の一般入試)

《各教科に対する考え方》

- ・国語は、思考力の基本であり、すべての学びにおいて深く考えるための最も基盤となる教科です。したがって、すべての方式において国語を必須とします。大学入学共通テストを利用する方式では、近代以降の文章、古典（古文、漢文）を採用、また記述式問題については段階別評価を点数化し、マーク式問題の得点に加点して合否判定を行います。
- ・英語は、語彙力と文法力が不可欠です。その上で「読む」「聞く」「話す」「書く」の 4 技能をバランス良く身につけることが大切です。したがって、大学入学共通テストを利用する方式では、「英語(筆記 [リーディング])」と「英語(リスニング)」の両方を採用するとともに、「英語外部資格試験スコア等保持者への『外国語』の特例措置」を実施します。英語外部資格試験のスコア等は、入学試験要項に記載します。
- ・数学は、数字で根拠を示し、論理的に思考、説明するために重要な教科です。大学入学共通テストを利用する方式の中で、7 科目型、5 科目型は「数学 I ・数学 A」を必須とします。また、記述式問題についてはマーク式問題の得点と合わせて合否判定を行います。
- ・理科は、世界的な高校生の学習到達度調査（PISA）でも科学的リテラシーが調査対象となっているなど、自然界の仕組みを理解するための重要な教科です。
- ・社会科は、人間が活動する社会の仕組みを理解し、「世界」と対話して考えるために必要不可欠な教科です。

1. 大学入学共通テスト方式

2月選考で「7科目型」「5科目型」「3教科型」を、3月選考で「後期型（4科目型）」を実施します。

(1) 2月選考

① 7科目型

共通テスト受験教科・科目		
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』から1科目選択【注1】【注2】	
国語	『国語』【注3】	
数学	『数学Ⅰ・数学A』【注4】	
数学	『数学Ⅱ・数学B』	高得点 4科目を 採用
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済』『倫理、政治・経済』から高得点1科目	
地理歴史	「日本史B」「世界史B」「地理B」	
理科	『「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目』『物理』『化学』『生物』『地学』【注5】	

② 5科目型

共通テスト受験教科・科目		
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』から1科目選択【注1】【注2】	
国語	『国語』【注3】	
数学	『数学Ⅰ・数学A』【注4】	
数学	『数学Ⅱ・数学B』	高得点 2科目を 採用
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済』『倫理、政治・経済』から高得点1科目	
地理歴史	「日本史B」「世界史B」「地理B」	
理科	『「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目』『物理』『化学』『生物』『地学』から高得点1科目【注5】	

③ 3教科型

共通テスト受験教科・科目		
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』から1科目選択【注1】【注2】	
国語	『国語』【注3】	
数学	『数学Ⅰ・数学A』『数学Ⅱ・数学B』【注4】	
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済』『倫理、政治・経済』	高得点 1科目を 採用
地理歴史	「日本史B」「世界史B」「地理B」	
理科	『「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目』『物理』『化学』『生物』『地学』【注5】	

(2) 3月選考

④後期型（4科目型）

共通テスト受験教科・科目		
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』から1科目選択【注1】【注2】	
国語	『国語』【注3】	
数学	『数学Ⅰ・数学A』『数学Ⅱ・数学B』から高得点1科目【注4】	高得点 2科目を 採用
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済』『倫理、政治・経済』から高得点1科目	
地理歴史	「日本史B」「世界史B」「地理B」	
理科	『「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目』『物理』『化学』『生物』『地学』から高得点1科目【注5】	

【注1】英語は、「英語(筆記 [リーディング])」と「英語(リスニング)」の両方を採用します。

【注2】「英語外部資格試験スコア等保持者への『外国語』の特例措置」を実施します。対象の入試方式において、出願時に特例措置の適用を希望された方で、英語外部資格試験のスコア等が本学が定める基準以上である場合は、当該証明書(コピー)等を提出することで、大学入学共通テストにおける「外国語」の受験の有無に関わらず、同科目を満点として換算し、合否判定を行います。基準となる英語外部資格試験のスコア等は、入学試験要項に記載します。

【注3】近代以降の文章、古典(古文、漢文)を採用し、記述式問題については段階別評価を点数化してマーク式問題の得点に加点して合否判定を行います。

【注4】記述式問題についてはマーク式問題の得点と合わせて合否判定を行います。

【注5】『「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目』は、1科目と見なします。

2. 本学独自入試

(1) 前期方式(現行のA方式) [スタンダード3教科型]

出題教科	科目	出題範囲	
外国語	英語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	
国語	国語	国語総合、現代文B、古典B(漢文の独立問題は出題しません)	
公民	政治・経済	政治・経済	いずれか 1科目 選択
地理歴史	日本史	日本史B	
	世界史	世界史B	
	地理	地理B	
数学	数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列、ベクトル)	

(2) 英語重視方式(3教科型)

出題教科	科目	出題範囲
外国語	英語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ
国語	国語	国語総合、現代文B、古典B(漢文の独立問題は出題しません)

公民	政治・経済	政治・経済	いずれか 1科目 選択
地理歴史	日本史	日本史B	
	世界史	世界史B	
	地理	地理B	
数学	数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B（数列、ベクトル）	

*英語の配点を他の教科より高く設定します。

(3) 共通テスト併用方式（3教科型）

出題教科		科目	出題範囲	
本学独自 試験科目	外国語	英語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	
	国語	国語	国語総合（近代以降の文章）、現代文B	
共通 テスト 受験科目	数学	『数学Ⅰ・数学A』『数学Ⅱ・数学B』【注4】		高得点 1科目を 採用
	公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済』『倫理、政治・経済』		
	地理歴史	「日本史B」「世界史B」「地理B」		
	理科	『「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目』『物理」「化学」「生物」「地学』【注5】		

*本学独自科目（2教科）と共通テスト受験科目（高得点1科目）の合計で合否判定を行います。

(4) 後期方式（現行の後期分割方式）

出題教科	科目	出題範囲
外国語	英語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ
国語	国語	国語総合（近代以降の文章）、現代文B

(5) 共通テスト+面接による総合評価方式

共通テスト受験教科・科目			+	本学独自試験	
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』から1科目選択 【注1】【注2】			高得点 1科目を 採用	面接
国語	『国語』【注3】				
数学	『数学Ⅰ・数学A』『数学Ⅱ・数学B』【注4】				
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済』『倫理、政治・経済』				
地理歴史	「日本史B」「世界史B」「地理B」				
理科	『「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2科目』『物理」「化学」「生物」「地学』【注5】				

※大学入学共通テストの各科目の成績利用方法は、別途入学試験要項で確認してください。

※「英語外部資格試験スコア等保持者への『外国語』の特例措置」は、別途入学試験要項で確認してください。

II. 総合型選抜(現行のAO入試)

1. 世界を変える人材育成入試 (日本語基準)

ロジカル・フラワー・チャート*を活用し、自分なりの「問い」を立て自分なりの「方法」で自分なりの「答え(最適解)」を見つける「探究」型の資質・能力(批判的思考力)を培い作成された小論文等を、志望理由書等の出願書類とともに評価します。

調査書では、国語、英語、数学の各教科と全体の学習成績の状況(現行の評定平均値)を評価します(数学は、少なくとも「数学I」ならびに「数学A」を履修していることとします)。

さらに、APUの多文化教育・生活環境やリソースを積極的に活用し、学び成長することができるかを測るための面接等を実施します。

一方、英語運用能力を測るための英語外部資格試験の結果は任意提出とし、提出されたスコア等は評価の対象とします。

*ロジカル・フラワー・チャートとは、自分なりの「問い」を立て自分なりの「方法」で自分なりの「答え(最適解)」を立証してアウトプット(論文作成やプレゼンテーション)したり、他者の議論を吟味したりするための、APU独自の「探究型の学び」のツールです。

2. 国際バカロレア(IB)入試 (日本語基準、英語基準)

国際バカロレア(IB)のディプロマ(DP)の取得(または取得見込み)者を対象とし、ディプロマ(DP)取得に至る学びを評価します。

「課題論文」(EE: Extended Essay)等の出願書類をもとに、APUの多文化教育・生活環境やリソースを積極的に活用し、学び成長することができるかを測るための面接等を実施します。

なお、日本語基準の出願者については、英語運用能力を測るための英語外部資格試験の結果を出願資格等で確認します。基準となる英語外部資格試験のスコア等は、入学試験要項に記載します。

3. 活動実績アピール入試 (日本語基準、英語基準)

志望理由書等の出願書類とともに、学術・スポーツ分野等で特に秀でた活動実績(例えば、全国大会入賞や国際的なコンテストでの受賞、英語外部資格試験の高スコア等、留学経験など)を評価します。

調査書では、国語、英語、数学の各教科と全体の学習成績の状況(現行の評定平均値)を評価します(数学は、少なくとも「数学I」ならびに「数学A」を履修していることとします)。

また、英語運用能力を測るための英語外部資格試験の結果を出願資格等で確認します。基準となる英語外部資格試験のスコア等は、入学試験要項に記載します。

さらに、APUの多文化教育・生活環境やリソースを積極的に活用し、学び成長することができるかを測るための面接等を実施します。

4. 海外就学経験者(帰国生)入試 (日本語基準、英語基準)

一定期間以上の海外での就学経験者を対象とし、志望理由書や成績証明書等の出願書類を評価するとともに、クリティカルシンキング(批判的思考力)を測るツール等を活用します。

また、英語運用能力を測るための英語外部資格試験の結果を出願資格等で確認します。基準となる英語外部資格試験のスコア等は、入学試験要項に記載します。

さらに、APUの多文化教育・生活環境やリソースを積極的に活用し、学び成長することができるかを測るための面接等を実施します。

5. 国際学生を対象とした入試 (日本語基準、英語基準)

クリティカルシンキング(批判的思考力)を測るツール等を活用します。

詳細は、入学試験要項で確認してください。

<https://admission.apu.ac.jp>

※APUは日英二言語教育を行っており、出願時に入学基準言語を選択できます。上記「英語基準」での出願資格となる英語外部資格試験のスコア等について、学生が英語による学習を一層深められるよう、2021年度入試より見直しを行います。具体的な出願資格は、入学試験要項で確認してください。

※9月入学の入学者選抜に関しては、別途お知らせいたします。

III. 学校推薦型選抜(現行の推薦入試)

指定校推薦入試

学校長の推薦に基づき志望理由書等の出願書類を評価します。

調査書では、国語、英語、数学の各教科と全体の学習成績の状況(現行の評定平均値)を確認します(数学は、少なくとも「数学I」ならびに「数学A」を履修していることとします)。

また、英語運用能力を測るための英語外部資格試験のスコア等を出願資格等で確認します。英語外部資格試験のスコア等は、入学試験要項に記載します。

さらに、APUの多文化教育・生活環境やリソースを積極的に活用し、学び成長することができるか、加えて知識・技能、思考力・判断力・表現力を確認するためにプレゼンテーションや口頭試問等(具体的な実施内容は、入学試験要項でお知らせします)を実施します。

主体性・多様性・協働性に対する評価について

学力の3要素における「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価に関わる本学所定以外の資料（JAPAN e-Portfolio 等）については、任意での提出とします。なお、提出された資料は合否判定には利用せず、入学後の学生自身の振り返りや学内での参考資料として活用することとします。

以上